

東海第二原子力発電所の20年延長に反対する意見書の採択を求める請願（案）

〇〇市議会議長 〇〇〇〇様

提出者 東海第二原発再稼働に反対する全国自治体議員の会

〇〇市議会 〇〇 〇〇

住所 電話

県内自治体議会 〇〇 〇〇

住所 電話

賛同者（提出者含め）別紙のとおり〇〇〇名

紹介議員

日本原子力発電（株）（以下原電）は、東海第二原子力発電所（以下東海第二原発）について最長20年の運転期間延長の申請をし、原子力規制委員会はこの認める方向で審査しています。東海第二原発は、福島第一原発事故を起こした同じ沸騰水型軽水炉を使用し、3.11で被災した老朽原子炉です。

東海第二原発で事故が起これば、福島事故と比べものにならない被害が予想されます。

第1に、東海第二原発の30km圏内に96万人、50km圏内に144万が暮らしている現状で、過酷事故が起これば広い地域が壊滅します。その際に、一斉に避難するのは不可能であり、たとえ避難できたとしても故郷に戻ることができません。

第2に、東海第二原発敷地と、日本原子力研究開発機構の東海再処理工場が近接し、大量の放射性廃棄物が置かれ、ほぼ満杯状態という危険な状況にありながら、使用済み核燃料の処分先が決まっていないことです。

第3に、房総半島沖に長さ160kmと300km以上の長さの巨大な活断層が存在するということが判明し、地震学者によれば地震でできた崖は、東側の活断層で2000m、西側は3000mで、いずれも大地震を何度も繰り返してきた可能性が高いと指摘していることです。基準津波を17.1mとして防潮堤を作る計画で対応できるのか、専門家から疑問が出されています。

第4に、東海第二原発の老朽化した格納容器などは、取り替えることは不可能であること。また可燃性の電源ケーブルの半分が取り替えられず、燃えにくいシートで覆うとされていることです。専門家から事故でシートが損傷し、ケーブルが中から燃えることには対応できないことが指摘されています。

以上の危険性があるにもかかわらず、原電が十分な対策を立てていないといえます。そして2月から開始された状況説明会では住民が納得できる説明はなされませんでした。私たち自治体議員は住民の命と暮らしを守る責任があります。しかしこのような実情を見れば、とうてい住民を守るなどできません。

以上の理由から、東海第二原発の20年延長を認めることはできないため、以下の項目を請願します。

- 一、 貴議会は、東海第二原発の20年延長運転に反対する決議を採択すること。
- 二、 事故の際に住民が安全に避難できる保証のない以上、再稼働に反対する意見書を、国と県に提出し、原電には再稼働を行わない旨の要請書を提出すること。

注：8日の総会で地元のご意見をいただき、請願案を修正することもご了解ください。